

# 2024 年度 国際共同研究促進プログラム（グローバル拠点型） 募集要項

## 1. プログラムの目的・性格

R2030 チャレンジ・デザインをもとに策定された第4期研究高度化中期計画では、目指すべき大学像として「グローバルな研究ネットワークの構築と研究成果の国際発信の強化により、『知のノード』となる大学」を掲げられ、この実現に向けて、グローバルな研究ネットワークの構築や研究成果の国際発信のさらなる強化が求められます。

海外の有力大学との研究連携および海外研究者との研究ネットワークの形成と国際共同研究を促進することで、RKN (Ritsumeikan Knowledge Nodes) を具現化し、国際的な認知度向上を図ることを目的に、本制度は実施されます。

グローバル拠点型は、既にある海外の大学等との組織的な国際連携の研究基盤をさらに発展・持続的なものにし、本大学の突出した国際連携研究拠点を構築することを目的として実施します。

なお、本プログラムは第4期研究高度化中期計画（2021-2025）施策として実施するプログラムであり、R2030 チャレンジ・デザインの目標達成、及び第4期研究高度化中期計画における KGI・KPI（参考資料1 参照）達成に資する取り組みとして位置付けられます。

## 2. 募集内容

助成区分	区分	連携イメージ	支援上限金額 支援期間
	グローバル拠点型	<u>既にある海外の大学等との共同研究体制をさらに発展し、持続的なものにする</u> ことで国際的に認知度の高い研究拠点を形成し、国内外から人・資金・情報等のリソースが集結する拠点の構築を目指す	上限 1000 万円/年 3 年間 ※2 年度目の研究期間中に中間審査あり
申請時の要件	<p>①国際共同研究の相手先となる海外の大学等および研究者が申請時に特定されていること。</p> <p>②申請時点で相手先となる海外の大学等と共同研究契約を締結していることが望ましい。未締結の場合には、申請時点で相手先となる海外の大学等との間で、採択された後には共同研究契約を締結することについての同意を得ていること。また、助成対象期間中には、相手先となる海外の大学等と共同研究契約を締結すること。</p> <p>※共同研究契約は、研究活動を含む契約内容であれば、契約形態は問わない。（参考資料2、FAQの3）参照）</p> <p>③国際共同研究の推進に加え、研究マネジメント、国際共同研究拠点としてのプロモーションや拠点の発展に専属的に従事する専門研究員または研究教員（助教）を必ず雇用すること。</p> <p>④2名以上の学内の本務教員が研究分担者として参画する内容であること。</p> <p>⑤国際共同研究加速基金や学術国際交流事業（JSPS）など国際連携を支援する外部資金の申請や国際共著論文の執筆に関する共同研究計画についても申請書に記載すること。</p> <p>⑥女性研究者 国際共同研究活動支援制度または国際共同研究促進プログラムの対象となること。</p>		

	<p>ムスタートアップ型、共同研究型と本プログラムは重複して助成を受けることを不可とする。(同時に申請することは可) 両プログラムの審査結果の通知を受け、重複採択が判明した場合は、申請者自身で判断の上、どちらか一つのプログラムを選択し実施すること。</p> <p>⑦申請する研究計画について安全保障輸出管理に関する懸念がないか確認し、必要な手続きを行うこと。</p> <p><a href="https://www.ritsumei.ac.jp/research/member/study_ethic/se11.html/">https://www.ritsumei.ac.jp/research/member/study_ethic/se11.html/</a></p>
採択予定件数	2件
助成対象経費	<p>海外研究者との共同研究に関わる経費を対象とする。具体的には、海外大学への研究者・大学院生等の長期派遣、海外研究者の受入れ、海外大学での研究費、国際共同研究の推進や研究マネジメント、国際連携拠点のプロモーションに専属的に従事する研究者の雇用に係る経費の支援とする。ただし、共同研究を推進するためにその必要性があれば、以下の経費も申請時に明記すること。</p> <p>旅費(国外・国内)、図書資料費、機器備品費、アルバイト等謝金、消耗品費、印刷・製本費、人件費(研究助教、専門研究員、RA・学生アルバイト等)、招聘研究者の旅費・滞在費、レセプション開催経費、会場費、翻訳料、校閲料など。</p> <p>※必ず「研究費執行ガイドブック」の基準に沿った内容としてください。</p> <p>※相手先となる海外の大学等の研究メンバーを雇用することはできません。</p> <p>※研究者の雇用には、本プログラム採択後に人事任用手続きが必要になります。実際の研究プロジェクトへの参加は任用手続き終了後となりますので留意ください。</p> <p>※機器備品費、消耗品費の合計額は全体の30%以下とします。(基盤となる研究費や設備は既に整備されているか、あるいは外部資金を獲得して実施することとします。)</p> <p>※レセプション開催経費はその必要性も審査の対象であることから、採択後の経費執行計画の変更によって新たに計上することは原則認められません。</p>
助成対象期間	2024年4月1日～2027年3月31日

- ※1 研究代表者としての申請資格のある本務教員は、立命館大学の教授、准教授(専任教員であり、原則として本学在職中にプロジェクトを終了する)とする。
- 研究分担者としての申請資格のある本務教員は、立命館大学の教授、准教授、専任講師、任期制教員(教授・准教授・講師・助教)、特任助教、初任助教、特別契約教員(教授・准教授)、特別招聘教員(教授・准教授)、特別招聘研究教員(教授・准教授)、研究教員(教授・准教授・助教)、研究職員(専門研究員・研究員・初任研究員)とする。

### 3. 審査にあたって

#### (1) 審査委員会

- 1) 国際共同研究促進プログラム(グローバル拠点型) 審査委員会において、評価項目に基づく審査を行い、採否を決定する。
- 2) 採択結果は研究委員会に報告する。

#### (2) 審査基準

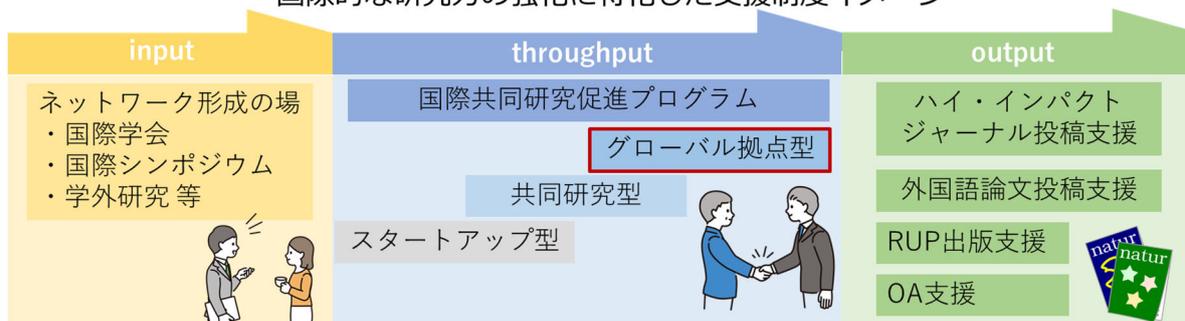
下記のポイントを中心に評価を行った上で、総合評価する。

##### 1) 国際共同研究拠点の将来ビジョン

- ①国際共同研究拠点の将来的な発展が見込める内容か。

- ②国際共同研究拠点を構築することの意義・必要性・優位性が認められるか。
- ③既に国際共同研究拠点として活動を進めている拠点については、これまでの実績、現状と課題を踏まえた上で、既存の取組とは異なる新たな展開を目指すビジョンとなっているか。
- 2) 国際共同研究の目標
- ①3年後に実現を目指す成果について、第4期研究高度化中期計画におけるKGI、KPIを踏まえつつ専門外の研究者が客観的に評価できる具体的な数値を含めた指標が設定されているか。
- ②意欲的かつ実現が見込める目標設定となっているか。
- 3) 国際共同研究の内容、方法
- ①本国際共同研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性と創造性が認められるか。
- ②ビジョンや拠点形成、国際共同研究の推進に向けた研究方法等は具体的かつ適切であるか。
- ③研究メンバーや海外共同研究者の役割と研究内容が明確に示されているか。
- ④研究計画と予算計画の整合が図られているか。また、効果的、効率的な予算執行を企図しているか。
- ⑤レセプション開催経費に関しては、国際共同研究の促進にあたり、その必要性と意義が十分に説明されているか。
- 4) 国際共同研究への若手研究者の参画について
- ①本大学の多くの博士前期課程学生・博士後期課程学生等が継続的に参画する研究計画となっているか。
- ②相手先大学の多くの博士前期課程学生・博士後期課程学生等が継続的に参画する研究計画となっているか。
- ③研究マネジメントや国際共同研究拠点としてのプロモーション、拠点の発展にも従事する研究者の役割が明確に示されているか。
- 5) 研究業績、準備状況
- ① 共同研究契約締結の見通しが持てているか。
- ②相手先の研究大学を選んだ理由や本学及び相手方研究大学のこれまでの研究業績等から見て、申請調書に記載されたプロジェクトに対する高い遂行能力を有していると判断できるか。
- ※研究業績については、立命館大学研究者学術情報データベース（研究者DB）に登録された、過去5年間（2019年4月1日～申請時点まで）の「著書」、「論文」、「研究発表等」の業績を審査時に用いる。
- 6) 上記に加えて、科学研究費助成事業－科研費－の保有状況と令和6年度分の新規申請実績、外部資金（政府系公募や民間財団等）への申請実績についてはプラス評価する（研究代表者のみ）。

### 国際的な研究力の強化に特化した支援制度イメージ



#### 4. 留意事項

- (1) 本プログラム内で、類似テーマ、同一研究者による複数の申請がある場合は、審査委員会において減額または不採択とすることがあります。
- (2) 申請調書受付後、申請資格および申請時の要件を満たしていないことが確認された場合は、審査に付さないことがあります。
- (3) 世界大学ランキングの学術者評価に関わり、相手先研究者を必ず推薦頂くようお願いします。
- (4) 助成期間終了後に研究成果報告書の提出をお願いします。
- (5) 研究代表者名、研究課題名、共同研究先となる海外の大学等名称は公開する場合があります。研究成果の発信にご協力をお願いします。
- (6) レセプション経費を計上する条件として、申請時に国際共同研究の全体計画の中でレセプションの位置づけを明確にしてください。
- (7) 「グローバル拠点型」に関しては、3カ年計画の審査を行いますが、予算措置は単年度ごと実施します。措置された研究費の残額を次年度に繰り越すことはできませんので、ご注意ください。
- (8) 2年度目の研究期間中に中間報告書を提出頂き、審査を行います。審査の結果、研究計画の見直しを要請する場合があります。
- (9) プロジェクト実施前に学内における安全保障輸出管理の懸念がないか確認し、必要な手続きを行うとともに、プロジェクト開始後も新たに生じた貨物の輸出・技術の提供・留学生等の受入れ等の際にチェックを行うようにお願いします。
- (10) 当該制度採択による授業の免除はありません。授業に影響を与える長期出張は経費執行の対象外となります。

#### 5. 申請調書の記入にあたって

- (1) 研究計画を行うために必要な体制であれば、研究メンバーの人数は問いません。  
※2名以上の学内の本務教員が研究分担者として参画すること。
- (2) 研究メンバーは、次のとおり定義します。
  - 1) 「研究代表者」 : 研究課題を統括し、研究計画の遂行、研究成果の取りまとめおよび研究成果の公表など、すべての責任を持つ者。
  - 2) 「研究分担者」 : 研究計画の遂行にあたり、研究代表者と共同して中心的な役割を果たし、実質的に共同研究に参画する者。
  - 3) 「博士後期課程学生」 : 立命館大学に在籍する博士後期課程学生および一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生で、本研究活動に参画する者。博士後期課程学生を本予算によりRAとして雇用することも推奨します。
  - 4) 「博士前期課程学生」 : 立命館大学に在籍する博士前期課程学生および一貫制博士課程2回生以下に在籍する院生で、本研究活動に参画する者。博士前期課程学生を本予算により学生アルバイトとして雇用することも推奨します。
  - 5) 「学部学生」 : 立命館大学に在籍する学部学生で、本研究活動に参画する者。  
※採択後、研究メンバーが変更となった場合、「研究メンバー変更届」を提出願います。
- (3) 研究経費の使途  
海外研究者との共同研究に関わる経費を対象とし、目的外の使用は認めません。
- (4) その他  
相手先となる海外の大学等との共同研究契約を申請時点で締結している場合は、契約書の写しを申請時にご提出ください。

#### 6. 審査結果の通知

審査結果の通知については、2024年4月上旬に応募者にメールで通知予定です。

## 7. 申請調書および個人情報の取扱い

- (1) 申請調書等の提出物は審査のみに利用します。なお、提出物の返却は致しません。
- (2) 申請調書等より取得した個人情報は、審査以外の目的には利用致しません。

## 8. 申請手続

所定の様式（申請調書）に基づき、smartDBにて申請願います。

<https://sdb.ritsumei.ac.jp/hibiki/BRDDocument.do?func=insert&binderId=13968>

※研究業績一覧（「著書」、「論文」、「研究発表等」）は、研究者DBの「データ出力・確認」の「研究業績書帳票出力」を選択して、pdf等で添付願います。

【研究者DBについて】：

[http://www.ritsumei.ac.jp/research/member/researcher\\_login/index.html/](http://www.ritsumei.ac.jp/research/member/researcher_login/index.html/)

## 9. 申請スケジュール

2023年12月22日（金）～2024年2月19日（月）	公募期間
2024年2月20日（火）～2024年3月下旬	審査期間
2024年4月上旬	審査結果の通知

## 10. 申請書提出先・問合せ先

キャンパス	担当課・担当者
朱雀	〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 立命館朱雀キャンパス 中川会館5階 研究企画課 中原、森下、生田 外線：075-813-8199／内線：510-2425、510-2414、510-2413 E-mail： <a href="mailto:resplan4@st.ritsumei.ac.jp">resplan4@st.ritsumei.ac.jp</a>
衣笠	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学衣笠キャンパス 修学館1階 衣笠リサーチオフィス 川崎、坂根 外線：075-465-8233／内線：511-2407 E-mail： <a href="mailto:k-seido@st.ritsumei.ac.jp">k-seido@st.ritsumei.ac.jp</a>
びわこ・くさつ	〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学びわこ・くさつ キャンパス BKCリサーチオフィス 防災システムリサーチセンター3階 （自然科学系）西川、堀 外線：077-561-3488／内線：515-6522、515-6521 E-mail： <a href="mailto:b-kodoka@st.ritsumei.ac.jp">b-kodoka@st.ritsumei.ac.jp</a> アクロスウイング5階（社系）西川、田中 外線：077-561-3945／内線：515-6522、515-2501 E-mail： <a href="mailto:across@st.ritsumei.ac.jp">across@st.ritsumei.ac.jp</a>

大阪いばらき	〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150 立命館大学大阪いばらき キャンパス A 棟 8 階 OIC リサーチオフィス 申請担当：工藤、北村 外線：072-665-2570／内線：513-2948、513-3502 執行担当：古久保、佐藤 外線：072-665-2570／内線：513-3507、513-2997 E-mail： <a href="mailto:oiro-k@st.ritsumei.ac.jp">oiro-k@st.ritsumei.ac.jp</a>
--------	---

#### 研究者 DB 入力のお願

研究者 DB は、研究業績やプロフィールを Web から公開するためのデータベースです。審査過程で参画する研究者に関して研究者 DB を参照することがあります。できるだけ多くの情報を入力していただきますよう、よろしくお願いいたします。詳細は、研究部ホームページ ([http://www.ritsumei.ac.jp/research/member/researcher\\_login/index.html](http://www.ritsumei.ac.jp/research/member/researcher_login/index.html)) からご覧ください。

以上

## 参考資料1

第4期研究高度化中期計画のKGIとKPI ※カッコ内は2020年度の実績を表す。

	<b>KGI</b>	<b>Key Goal Indicator</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• QS世界大学ランキング 301～400位 (801～1000位)</li><li>• THEインパクトランキング 101～200位 (201～300位)</li><li>• Top10%国際共著論文 160本/年 (80本/年)</li><li>• 科研費大型種目&lt; A以上&gt;採択数 10件/年 (5件/年)</li><li>• 外部資金獲得額 50億円 (33.5億円)</li></ul>
	<b>KPI</b>	<b>Key Performance Indicator</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• QS世界大学ランキング学術者評価 評価者数 300名 (86名)</li><li>• THEインパクトランキング 評価ポイント 84.0 (75.4)</li><li>• 科研費各種目の採択件数、採択金額 790件 (690件)、18億円 (14億円)</li><li>• 産学官地連携による外部資金額 11億円 (7.3億円)</li><li>• 海外派遣研究者数、受入研究者数 1,334名 (7名)、440名 (140名)</li><li>• 国際共著率、ハイインパクトジャーナル投稿数 33.3% (29.2%)、200件 (94件)</li><li>• 研究所、研究センタープロジェクト等への大学院生の参加者数 博士後期課程学生300名 (D191名)、博士前期課程学生300名 (M192名)</li></ul>

## 参考資料2

国際共同研究促進プログラム・申請にあたってのFAQ (2023年12月22日時点)

- 1) 研究機関は2者ではなく、複数でも可能でしょうか？  
複数の研究機関との共同研究も支援対象です。
- 2) 本大学の研究メンバーが1名の場合、申請対象となりますか？  
2名以上の学内の本務教員が研究分担者として参画する内容であることが申請時の要件となります。
- 3) 既にある海外の大学等との共同研究体制、とはどのようなものでしょうか？  
例えば国際共同研究促進プログラム共同研究型の採択プロジェクトや科研費海外連携研究の採択プロジェクト、海外大学を共同研究メンバーに含む大型公的資金の採択を受けたプロジェクト等の研究基盤を持っているプロジェクトのことを言います。
- 4) 共同研究契約は、どのようなものでしょうか？  
研究者の個人的な契約では共同研究契約の要件を満たしたとは言えません。なお、契約の形態については、MOU等を含め「研究活動を含む契約内容」であれば、契約形態は問いません。
- 5) 海外企業との国際共同研究は、支援対象となりますでしょうか？  
共同研究の計画に海外企業を含めることは支障ありませんが、計画には必ず海外の大学等の研究者が参画していることが条件となります。
- 6) 海外の研究者を受け入れる際の手続きについて教えてください。  
客員協力研究員制度を活用し、受入をおこなってください。
- 7) 海外研究者を受け入れる際の費用も、経費計画に計上する必要があるでしょうか？  
採択課題に対して、海外研究者を受け入れる際の支援（ビザ関係、入居時の保証人サービス、空港出迎え、住所登録、口座開設、生活オリエン等）は、外部企業への委託により、研究部から別途の予

算による支援を予定しています。ただし、招聘した海外研究者の移動交通費や滞在・居住費等は、別途の予算による支援対象とは致しません。

参考資料 3

## 国際共同研究発展のパターン（例 1）

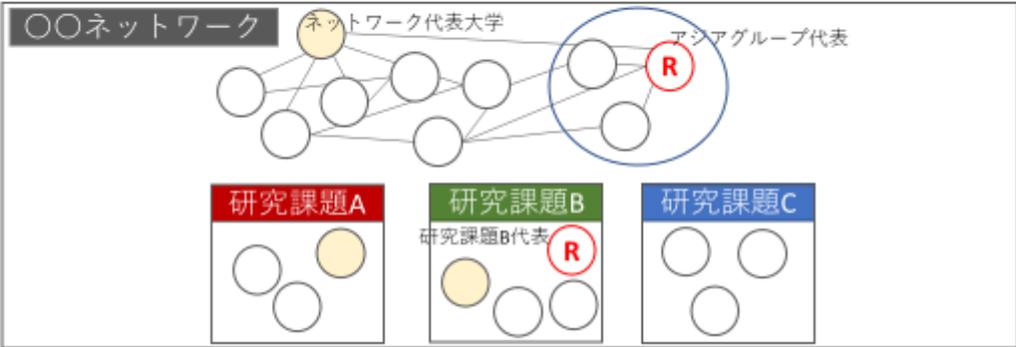
分類

連携イメージ

成果・発展

**① 国際的に既に認知度のある研究ネットワークへの参画型**  
 ・既存の国際研究ネットワークの中でテーマを設定する連携

〇〇〇〇の解明研究ネットワーク（主管大学：例えばポストン大学・バドヴァ大学）



国際的に認知されたネットワークの中で、設定された研究プロジェクトや地域等の枠組みでの代表など重要な役割を果たす。

設定された国際的ネットワークが、当該分野で世界一のものとなり、アジア又は日本における幹事研究機関となる。

パターン例 1 の発展のイメージ					
組織連携 の進捗評価	指標	ステージ 0	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3
	(A) ネットワークへの貢献	ネットワークに参画する	ネットワーク内で何らかの中心的な役割を果たす	ネットワーク内でテーマや地域の代表の役割を果たす	ネットワーク全体の代表となる
	(B) ネットワークの価値	当該研究テーマにおけるグローバルなネットワークである	10 機関以上の大学が参画するネットワークとなる	当該分野では必ず知られるネットワークとなる	当該分野で最も権威あるネットワークとなる
目安となる外部資金		国際共同研究強化 若手研究者海外挑戦プログラム 二国間交流事業	SATREPS	海外連携研究 SICORP	国際先導研究 先端国際共同研究促進事業

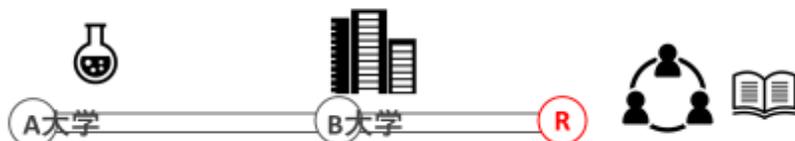
## 国際共同研究発展のパターン（例 2）

分類

### ② 専門性・技術・設備連携型

・ 特定の高い専門性や技術・設備等のリソースを持つ海外研究者との連携

連携イメージ



例：材料系	<b>素材提供</b> <small>(調達ネットワーク・精製技術)</small>	<b>合成・製造</b> <small>(製造装置・技術者)</small>	<b>解析・評価</b> <small>(解析装置・アナリスト)</small>
例：理論と実装	<b>理論・仮説の構築</b> <small>(これまでの理論の積み上げ)</small>	<b>コンテンツ作成</b> <small>(設計技術・ソフト)</small>	<b>実装フィールドでの検証解析</b> <small>(解析技術・アナリスト)</small>

成果・発展

共通の研究目的のために、それぞれの機関が強みを活かした役割分担を行い、一機関では実現できない大きな研究成果を生み出す。

当該の研究分野において、他機関も参照・利用する結果や技術が多数生み出され、世界中から研究者が集まる研究拠点となる。

### パターン例 2 の発展のイメージ

組織連携の進捗評価	指標	ステージ 0	ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3
	(A) 独自成果の創出	連携を通じて効率よく、効果的に研究結果が得られる	連携を通じて新しい結果や技術が生み出される	当該研究テーマにおいて、本拠点でしか得られない研究成果を創出できるようになる	当該研究テーマにおいて、他機関も参照・利用する結果や技術が世界で最も多く生み出される拠点となる
	(B) 技術・ノウハウの展開	・連携先の技術・ノウハウ等を活用する or ・本学の技術・成果ノウハウ等を連携先の大学が活用する	・連携先の技術・ノウハウ等を本学に導入する or ・本学の技術・ノウハウ等を連携先の大学が導入する	双方の技術・ノウハウ等を他大学が活用できる状態となる	双方の技術・ノウハウ等を他大学が活用のために多くの人や情報が集まるプラットフォームとなる
	目安となる外部資金	国際共同研究強化 若手研究者海外挑戦プログラム 二国間交流事業	SATREPS	海外連携研究 SICORP	国際先導研究 先端国際共同研究促進事業

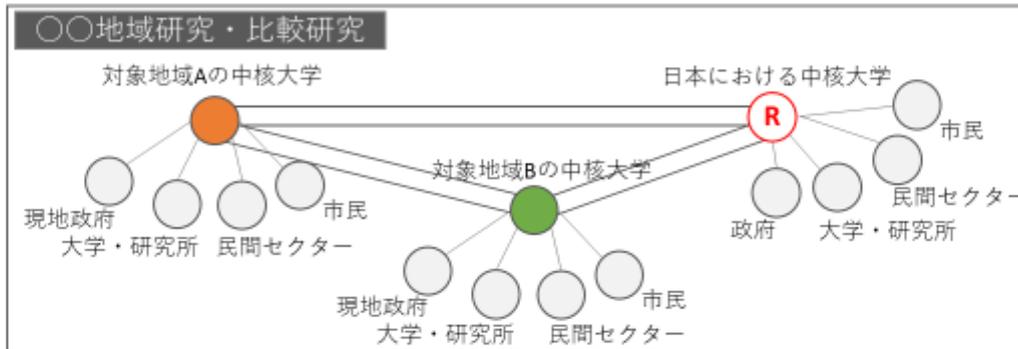
## 国際共同研究発展のパターン（例3）

分類

### ③ 特定の地域・国の個別事情説明型

・特定の国や地域が持つ特殊性に依拠する連携

連携イメージ



特定の国や地域が持つ特殊性を手掛かりに研究テーマを設定し、対象国・地域についての多面的な理解と、国・地域間比較によって新たな知見や示唆による価値を得る。

成果・発展

当該の研究テーマにおける対象の国・地域についての知見やネットワークが世界で一番集積する中核としての役割を果たす。

### パターン例3の発展のイメージ

組織連携の進捗評価	指標	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3
	(A) 連携先ネットワークの活用	連携先を通じて対象の国・地域の各ステークホルダーへのアクセスが可能となる	連携先機関が、対象の国・地域のステークホルダーの情報が多く集まる有力な機関となる	連携先機関が、対象の国・地域のステークホルダーの情報が最も集まる機関となる	連携先機関が、対象の国・地域のステークホルダーの情報に関して、本学以外の他の機関に情報提供ができるプラットフォームとなる
	(B) 本学ネットワークの強化	本学を通じて日本（その他、特定の地域等）の各ステークホルダーの情報を提供できる	日本において当該研究テーマの日本（その他、特定の地域等）の各ステークホルダーの情報が多く集まる有力な機関となる	日本において当該研究テーマの日本（その他、特定の地域等）の各ステークホルダーの情報が最も集まる機関となる	日本（その他、特定の地域等）の各ステークホルダーの情報に関して、連携先機関以外の他の機関にも情報提供ができるプラットフォームとなる

目安となる外部資金	国際共同研究強化 若手研究者海外挑 戦プログラム 二国間交流事業	SATREPS	海外連携研究 SICORP	国際先導研究 先端国際共同研 究促進事業
-----------	---	---------	------------------	----------------------------